

議 事 録

作成年月日

2015 年 11 月 22 日

日 時	2015 年 11 月 14 日(土) 14:00~17:00	作成者	承認
場 所	TKP 博多駅南会議室 第5会議室	安田	岩本・稲垣・柳沢
出席者 (敬称略)	<p>岩本力、稲垣照聡、柳沢宏和(以上理事)</p> <p>小松平孝弘、田中寿則、服部真、長勢直美、浅川英義、妻神邦昭、岡田一、澤田伸子、鈴木賢一、金井良樹、安田正広、河辺信也、井出和之、戸所信行、寺田芳文、津村明彦、長友仁孝、石川文博、大谷寿朗、吉田仁、坂東司(以上正会員・クラブ代表)</p> <p>川野岳大(ACP Representative 補佐)、伊藤仁人(会計監査)、小倉清(認定記録担当)、菅田大助(問い合わせ窓口)、片山隆(Web 管理)、浅野卓也(会員名簿管理)、原田ゆりか(DB 開発)</p> <p>稲川浩、今野隼人、塩田彰、平松章治、木宮晴代、横山浩二、木原ゆうこ、深町綾、藤本幸彦、吉住祐三、藤本元、西田真人、宮崎航、浅野愛美、前川孝裕、長島誠一、桜井優子(以上傍聴人)</p>		
議 題	<p>1)会長選任及び承認(岩本)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現理事の任期満了に伴い、(一社)AJ の新しい理事長を選びます。 <p>2)2015 年会計の中間報告(岩本、伊藤)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)AJ の事業年度は 1 月 1 日から 12 月 31 日なのであくまで中間報告という形になります。 <p>3)スポット保険の契約変更(岩本)</p> <p>4)メダルの一括発送(岩本)</p> <p>5)作業担当の振り分けについて(岩本)</p> <ul style="list-style-type: none"> a:メダル、シール、ブルベカード発送担当 b:ACP 連絡担当 c:新ルート確認担当 d:SR、R5000 及び R10000 申請受付担当 e:会計 <p>他</p> <p>6)RM 会議報告(稲垣)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PBP 終了後に開催された RM 会議の参加報告 <p>7)「ランドネきたかん走行会」開催報告(服部)</p> <p>8)認定記録 DB 開発の件(柳沢)</p>		

3 クラブの新代表が紹介された。AJ 宇都宮の服部さん・AJ 神奈川の田中さん・AJ 千葉の浅川さん、以上 3 名。拍手で迎えられた。その後、3 名に対して他の代表全員が紹介された。

1) 会長選任及び承認

○現理事の任期満了に伴い、(一社)AJ の新しい理事長を選びます。

- ・立候補はなし。
- ・選任作業を容易にするため、全員の推薦により決められた理事長が他の理事を決めて事後承認という形を取りたい。
- ・推薦の結果、稲垣さんが得票最多であった。全員異議なしで信任された。
- ・会則 11 条『主催経験のない者は理事長になれない』を変えなければならない。会則は定款と違い、変更可能である。
- ・正式な就任は来年からで、年末の決算後、ML による社員総会で会計等の承認が得られれば現理事からバトンタッチとなる。

稲垣「法人として順序良く物事を考えていくということ、これは当たり前の話である。もう一つ、法人化したからには法人法に従って、社会に認めてもらい、岡山や北海道が尽力しているような行政との関わり方を皆でしていかなければならない。そうしないと、法人化した意味がないと思う。また、会則 11 条に違背してまでご推薦いただいたことに感謝する。間違いなどは指摘してほしい」

2) 2015 年会計の中間報告

○(一社)AJ の事業年度は 1 月 1 日から 12 月 31 日なので、あくまで中間報告という形になります。

大谷「来年のメダル代は何円にするのか。」

柳沢「11 月最初の為替相場の終値は 1 ユーロ=132 円 98 銭だったので、133 円として 1 枚 665 円でどうか。」

岩本「では、700 円ではどうか。赤字が続くのは適切ではないし、中途半端な金額では計算作業の負担増につながる。」

※結論:2016 年はメダル代を 700 円で精算する。

3) スポット保険の契約変更

○以前は会員は団体保険に加入していたが、保険金支払いの増加につれ保険料がかなり上がっていったので、団体保険への加入をやめ、試験的に現行の仕組み (BRM 毎に国内旅行保険に一括加入) とした。結果、3 年間で 1 件の (保険金支払いの) 請求もなかった。参加者は全員きちんと、事故時に自分で加入している保険を利用している。

○そこで、AJ としてスポット保険に加入させるのはやめる。ただし、各クラブは不安に感じるかもしれない。

岩本「たまがわはまだ契約しているのか」

大谷「たまがわ会員だけ契約している」

岩本「会員以外の参加者は?」

大谷「初年度は 3 ヶ月のスポットとして契約していたが、事故が一件もなかったのでやめた」

岩本「これまでの保険会社に、各クラブが直接加入できるよう交渉している。AJ としての仕事を減らすことにもつながる」

寺田「各クラブが契約するのは自由なのか」

岩本「自由である。契約しなくても良い」

長勢「各クラブが、年間包括契約として契約できるということか」

岩本「その通り」

柳沢「AJ がスポット保険に加入しなくなると、今年で言えば 3,256,700 円、これだけのお金がかからなくなる。それに伴い、会費の引き下げはするのか」

岩本「当然引き下げる。スポット保険を契約する形式がどうなるのかは、これから確認する。他の保険に加入しても良いし、それは各クラブに任せるが、施設賠償責任保険には必ず加入するべき」

長勢「施設賠償責任保険は、主催者側に賠償責任がある場合に保険金が支払われる。スポット保険は、被保険者個人に対して保険金が支払われる。事故のケースによっては、一方だけしか支払われない場合もあり得るので、施設賠償責任保険だけで両方まかなえるという勘違いが発生しないよう、注意喚起した方が良いのではないか。施設賠償責任保険では、主催者側の事故に対しては保険金が支払われないことを確認しているので、AJ 北海道ではスタッフのためにボランティア保険に加入している。参考にして欲しい」

柳沢「そもそも、AJ がスポット保険に加入した理由は、参加者が起こした事故の責任を主催者が負わされるリスクを避けるため。参加者自身で賠償しきれない事態に備えたもので、長瀬さんの意見そのものは重要だが、今回の保険の話とは少し趣旨が異なる」

岩本「参加者の保険加入状況を確認する手段がなく、またうっかり期限が切れている場合も考えられる。法的責任の所在とは別に、民事で訴えられる可能性もある。それを踏まえて、各クラブで検討してほしい。会費については定率制の提案があったが、各クラブでばらつきがあるので、無理がある」

柳沢「現在、各クラブが AJ に納める会費は、参加者 1 人あたり 300 円という定額制。定率制は、例えば参加費 800 円とすると 10%なら 80 円、2,500 円とすると 250 円、という案」

岩本「そうすると、全ブルベの参加料を事前に提示する必要がある」

大谷「RM のブルベは関係あるのか」

稲垣「関係ない。1000km まで」

岩本「スポーツエントリー(以下、SE とする)を利用しているクラブとしていないクラブがあるし、参加者に対する経費や ACP からの請求額は変わらないので、面倒な事態になる。やはり定額制が良い。100 円程度でどうか」

柳沢「今年状況をベースに試算をしてみた。仮に BRM とフレッシュの会費を一人あたり 90 円にすると 40,000 円弱多くなる。100 円とすると、約 200,000 円の増収となる。これまでは 300 円納めていたので、増収になるとは言え割高ではないと思うし、計算も楽になる」

大谷「認定料はいくらだったか」

川野「1 人あたり 0.45 ユーロ」

稲垣「約 70 円」

柳沢「SR600 については、会費 100 円」

岩本「では 100 円でいいのか。黒字になっていくのか」

川野「為替レートの変動がある」

柳沢「それに、エントリー数に対する認定者数の割合の変動など、考慮すべきパラメータが多すぎる」

川野「マージンを取っておく方が良い」

鈴木「会費をこれまでの 300 円から 100 円に変更する、その一方で、スポット保険の加入については各クラブが判断するということだが、スポット保険のコストはおおよそどのくらいか」

大谷「以前は会員にかけていたが、事故履歴の増加と共に保険料がかなり上がっていったので、試験的にやめてみた。結果、3 年間のうち 1 件の請求もなかった。参加者は全員きちんと、事故時に自分で加入している保険を利用している。そこで、AJ としてスポット保険に加入するのはやめる。ただし、各クラブは不安に思うだろう。

岩本「1 人あたり約 300 円。ただし、それは出走者についてかかる金額で、DNS の場合はかからない。スポット保険と呼んでいるが、正式には国内旅行者向けの保険である」

※結論:スポット保険には加入せず、会費は 1 人あたり 100 円で承認される。

4) メダルの一括発送

○発送作業の内容について説明があった。非常にややこしい作業だが、全て単独で行っていた。

岩本「現在、福岡・長崎・熊本では、各 BRM の完走後に直接手渡している。そうすれば、すぐに入手できるので参加者からは喜ばれるし、あとはブルベカードのみ発送すれば良いので手間が省け、発送ミスも起こらない」

稲垣「以前はメール便で 80 円+税で発送できていたのが、現在は 160 円+税の DM 便しかない。それを利用すると、かなり出費が増えてしまう」

岩本「AJ から各クラブへ、認定シールだけを発送するのは負担にならないが、メダルを含めると梱包の問題もあって大変手間がかかる。来年から 3 年間は、各クラブへ一度に発送するようにする」

妻神「AJ としては、在庫管理がしやすくなるということか」

岩本「当然それもあるし、認定シールとメダルを同時発送することが最も手間がかかる。照合しなければならないので」

伊藤「各クラブのメダル代の精算は、一括前払いなのか、どのタイミングか」

柳沢「年末で出した個数で締めて、個数分支払う。メダルは在庫状況に応じて足りない分を翌年追加請求するなど、調整していく。3 年間続けて、4 年目は余ったら買い取るなどの対策を話し合う」

岩本「以前、その件で ACP へ川野さんが問い合わせたら、引き取ってもらえることになった」

稲垣「お金に関しては、先に AJ が ACP へ支払って年末に各クラブへ請求を出すなら、AJ が立て替えるということになるのか」

岩本「ACP からは 12 月に請求が来るので、メダルは先にもらっている」

妻神「では、会計的には問題ないということか」

岩本「問題ない」

稲垣「各主催者たちは、その心配は必要ない」

岩本「伊藤さんが言ったように、いつ精算するかを決めなければならない。BRM が全て終わった時点か。メダルの販売数と在庫数は報告するべき」

井出「メダルを ACP に返送したら、その分の代金は返ってくるのか」

岩本「その分は差し引きされる」

寺田「来年の分はいつ頃もらえるのか」

川野「まだ知らされていない」

寺田「福岡の来年 1 月 3 日の分はもらえないのか」

岩本「それは間に合わないかも知れない。確認する」

田中「メダル個数は精算書に記入しているので、別途報告する必要はないのではないか」

岩本「その通り。メダルの在庫調整などに関わるコストについては、各業務がなるべくスムーズに運ぶように、ある程度は AJ がまかなえるので、任せてほしい。通信費の節約にもなる」

※結論:メダルのみ、1 年分まとめて発送する。支払いは後払い。

5) 作業担当の振り分けについて

○現在までの担当者

a:メダル、シール、ブルベカード発送担当 = 岩本

b:ACP 連絡担当 = 川野

c:新ルート確認担当 = 柳沢

d:SR、R5000、R10000 申請受付担当 = 小倉

e:会計 = 岩本

岩本「新理事が決まってから検討して良いだろう」

柳沢「現理事の任期が今年内で、実質、1 月 1 日から新体制で作業してもらわなければいけない。その時点で担当が決まっていなければ困るのは a、b、e。e については、報告書をまとめるなどの業務は当面ないが、来年 1 月に、開催予定の BRM の精算書を準備しなければならない。上記以外には Web 担当。現在は片山さんが担当し、開催してリザルトが出たら Web にアップロードしてくれているが、1 月に BRM を開催するなら 1 月の段階で担当者が決まっていなければならない。そしてこれは急ぎでお願いしたいが、主催者サイトと ML の管理。現在は私が管理者権限を持っているが、私が辞めてアカウントを削除すると、作成した資料も全て削除されるはず。そのため、次の担当者にデータを引き継ぎたい。AJ のインフォメーションも必要。今年、浅野さんが作成していた会員名簿を、来年も同様に出すのであれば、その担当を決めておく必要がある。それから、これは議題に載せておらず、また専任でなくても良いが、SE 担当は必要だと思う。AJ の入会の仕組みに関わる、SE の画面の内容などについて、変更の指示はこちらから出さなければならない。例えば、クラブの数が変われば表記数も変えてもらわねばならないなど、細かい点にまで及ぶ。これ以外の細々とした役割の担当は、すぐに決めなくても構わない。まず稲垣さんが副会長と ACP 連絡担当を決め、他を順々に決めていく」

岩本「誰にでもできることではなく、役割についてのスキルが必要になる」

稲垣「特に、名簿や主催者サイトに関しては、車で例えれば無免許運転をするようなことになると大変なので、しかるべき知識を備えた人をお願いしたい」

柳沢「主催者サイトは Google の仕組みを利用しているので、自クラブの Web サイトで同じ仕組みを利用している人なら問題なく管理できるだろう。ML の管理も、例えば HTML の知識が必要、というようなわけでは

ないので、さほど問題ない。重要なのは、AJ のインフォ。これは、AJ の規則や主催者の事務などに理解のない人だと、参加者からの質問には回答できない。SE もそのシステムの知識がある方が良い。Web は片山さんが一番解っている」

片山「データの変更は大変な作業になる。データ数が非常に多いので、専門業者に依頼してもすんなり引き受けてくれるとは思えない」

柳沢「リザルトをアップしているページだけ Google の機能に替えて、そこだけ主催者全員で編集するというのはどうか」

片山「データのアップはこちらでしなければならない。後の議題であるデータベース(以下、DB とする)との絡みの話になるが、全体を統一すると非常に大変な作業になってくる。現在のページのテンプレートは、WordPress のように 1 ヶ所変えれば全てが連動して変わるというものではないので、数百ページを全て手作業で変更しなければならない。いずれにしろ、サイトだけでなく AJ 自体の内容を熟知した人でないと指示が出せない」

岩本「各クラブから 1 人ずつ担当者を出すくらいの構えでお願いしたい。自薦・他薦問わない」

大谷「事務作業は外注でもいいのか。岩本さんは会長でありながら、まるで事務作業担当のような仕事ばかりしていたので、会長は会長にしかできない仕事に専念してもらい、裏方の作業は皆で分担する。メダルやデータの管理など、分担しづらい作業は専門業者にお願いするのはどうか。事務作業なので、こちらから枠組みを提示して作業量の見積を取って依頼することは可能だろう」

稲垣「すると、見積額が分かり、なおかつ保険料が先払いになった場合、まとめて支払えないクラブが出てきたとしたら、AJ の余剰金から立て替えるのか。AJ に余裕がなくなる可能性もある。余裕がないだけならまだしも、運営できなくなるほどとあれば、その分を参加者に転嫁することになり、先ほど決めた会費 100 円という額が変わってくるかも知れない」

柳沢「外注するにしても、フルタイムで人を雇うわけではないので、それほど高額にはならない」

岩本「会計業務も大したものではない。大部分は郵送料で、他は年末の精算。メダル管理を分けてしまえば、かなり簡単になる」

柳沢「後は、BRM 担当・フレッシュ担当・SR600 担当・リザルト担当・R5000/R10000 担当をそれぞれ置いて、その担当者が主催者サイトと Web サイトの内容の更新などについて、サイト担当者に指示を出したり、各主催者に通達を出したりするようにすれば良いのではないかと。現在は、私が単独で主催者サイトを管理しているので、ルールやリザルトについて更新を忘れていたり、忘れたままになってしまう。担当割り方を狭くして、役割を明確にする。リザルトのミスは川野さんが全て修正して ACP に送っているので、各イベントごとに担当がいた方がうまく回る」

川野「大谷さんの意見『会長及び副会長には、その立場でしかできない仕事に専念してもらって、細かな作業の担当は分担しよう』、現時点でこれを良しとする前提で話が進んでいるが、良しとするのか」

岩本「責任者は必要だ。手を動かすところを分担するという話で、誰かが全体を見ていなければならない。次の新体制に、そのことをどういう風に任せるか。お金に関わることは、最終的には理事長の責任だが、その数字を扱うのは誰かに任せる」

川野「では、責任と実務は分担するという方向で良いか」

岩本「責任の所在は変わらない。あくまで実務を分散させよう、ということ」

稲垣「これだけ出てきている担当を、まずは一旦まとめなければならない。担当を決めて、自薦にしろ他薦にしろ埋めていかなければならない。また、外注できるところはする。外注が難しい部分もあるが、時間の余

裕はない」

片山「最低、もう1人は欲しい」

稲垣「前々からAJの英語版サイトが欲しいという意見があるが、現状のシステムでは全て手作業で、一から制作することになる。他のサイトを構築してリンクさせることは可能か」

片山「可能だし、むしろそうしなければならない。できれば近い将来、統合して使いやすい形にするのが理想的だが、今のままでは非常に難しい」

稲垣「それ以外のことも、なるべく早く担当者を決めて、1~2ヶ月のうちに引継ぎしなければならない」

岩本「前会長は大勢のオダックス埼玉スタッフと協力していて、私が前会長から引き継いだ時は、スタッフだった柳沢さん・菅田さん・小倉さんのおかげで助かった。Webは前会長自身が管理していたので、それは片山さんをお願いして、3年間うまく行っていた。川野さんも然り。しかし、このまま続投するのは無理がある。人材が埋もれているはずなので、ぜひ声を上げて」

稲垣「ACP担当については、少なくとも語学ができなければならないし、またExcelをきちんと使えなければならない。ケアレスミスなど非常にチェック事項が多く、神経を逆撫でするほど。AJ北海道提供のリザルト作成プログラムは全くミスが出ないが、それはSEのデータを使用する。ではSEを利用していないとプログラムを使えないのか、というと、実はそうでもないらしい。最大の問題は、対応OSがWindowsのみであること。大谷さんはMacで独自に作っているらしく、それも全くミスがない」

○AJ北海道のプログラムを利用していない主催者を確認。十数名が挙手した。

岩本「なぜ使わないのか」

寺田「SEを利用していないため」

岩本「SEを利用していなくても使える。それ用の項目がある。自作プログラムでも手書きでも良いが、ミスのあるリザルトを提出されたら修正するのはこちらなので困る」

稲垣「そこを義務化するということは考えられないか」

岡田「A近畿では今年使おうとしたが、同日開催でもスタート時間に幾つかの区切りがあり、それは一度には処理されないで、プログラム担当者に相談して、A近畿のやり方に対応できるように修正してもらった。しかし、その検証はできなかった」

岩本「A近畿は、SEは利用しているのか」

岡田「利用している」

岩本「それぞれのスタート時間に合わせた、個別のリザルトを上げたいということか」

岡田「その通り」

今野「A近畿のリザルトの半分ほどは、実はAJ北海道のプログラムを使っている。担当者によって異なる。SEのAJ北海道のページには、1件のBRMに対してクリックできるボタンが1個しかない。いろいろなクラブに対して、例えば6:00スタートで1枠、6:30で1枠という風になると、それぞれ1枠ごとに1つずつしか選択できないので、それぞれの個別のリザルトができてしまう。それで、1度にBRM1つしかない場合は良いが、1度に複数のBRMを1つとして処理していたクラブは、プログラムを使えていなかったはずだ。今年になって改良されているはずだが、近畿では検証できなかった。私は検証の手間を省くため、マクロを改造して使っていたが、バージョンが枝分かれしてしまうのでお勧めはできない」

長勢「その件について近畿から相談があったので、プログラム担当者が改造して検証手前の段階で渡していたが、岡田さんが多忙で検証できなかった。その後MLに、『複数開催しているクラブは連絡してほしい。』

新バージョンを使ってうまく動けば、それを標準仕様としたい』との旨で、担当者のメッセージを載せた。『使っていない人なりの問題点や事情があれば、もし改良できるなら協力する』とのこと。ただ、大きな問題は、Macしか使わない人は動かさないこと」

稲垣「それを大谷さんは改造して使っているのか」

大谷「プログラムとは関係なく、Excel で関数だけで作っている。SE は使っていないが、似たようなフォームに入力してもらい取り込むようにしている。関数だけなので、特に Mac に限らず、Windows でも Google のシステム上でも使用可能」

岩本「無理にプログラムを使う必要はない。ミスがなければ良い。指定された書式通りに提出してくれれば、どのやり方でも構わない。ミスがあまりにも多い現状があるので、どうして使わないのかと問うているだけ。使えばミスはない」

鈴木「Mac を使っているので、Windows 対応のマクロは使えない。作る側に Mac がないと、開発検証ができないだろう。現在の担当者でなく、Mac 用プログラムの開発を AJ の方で誰かに頼めないか」

岩本「現在の担当者は無償で作ってくれているので、申し訳ない。いくらかは報酬を支払いたい」

稲垣「問題のあるリザルトを ACP には出せない。参加者が認定されないのは困るので、ここはしっかり方法論を詰めて良い方向に進めていきたい」

長勢「Mac だから使えない、という人はどのくらいいるのか」

→数人が挙手。

岩本「A 近畿のように時間別になっているから使えない、という理由もある。他の理由はあるか」

田中「神奈川では、使っていない担当者がある。理由は、プログラムが不安定なため。クラッシュすることもある。原因は分からない」

大谷「たぶん Excel のバージョン違いだろう。うちの担当者が解析したところ、継ぎ足しで作られている部分があり、そこをきれいにするのは難しいそうだ」

今野「私はそれほど悪くないと思うが、かなり重い。パソコンが古いとうまく動かないようだ」

川野「現在、ファイルを ACP の認定サイトに処理させると、リザルトがその場で返ってくる仕組みになっている。そこである程度、システム的にチェックが入っているので、絶対に間違えることはない。ただ、ファイルにミスがあると手戻りが発生してしまう。私が修正するのは簡単だが、年間数百件あるので、できればしたくない。そのため、過去事例を共有する意味で、ML でミスを知らせている。それを見もらった上で、マクロや自作プログラムなど、ミスをなくす方法を考えてもらうのは良いが、どちらかと言うと AJ が主導して『〇〇を使え』と指示するものではないとは思う」

井出「ACP のサイトを私たちにも開放してくれるとありがたい」

川野「開放されてはいない」

井出「チェック機能だけ使わせて欲しい」

川野「プロテクトされているサイトで、各国一人ずつ ID が割り振られている」

片山「それこそ AJ がそういうテストサイトを作れば良いのでは」

川野「もう 1 点。きちんと作ろうと思えば、手間暇もお金もかかる。そうすると、フォーマットのリストがなくなるが、そもそも名前が間違っている場合がけっこうあるので、ミスはまずなくなる。ミスを起こさないのは大事だが、なくなるまで頑張るというのではなく、どうすればミスがなくなるのかという見方をしてもらいたい」

岩本「プログラムを使うのは強制ではない。便利だから使ってみては、という提案だ。食わず嫌いなら一度使ってみたらどうだろうか。また、使える人に頼むという手もある。とにかくミスをなくして行って、川野さんや

柳沢さんの手を煩わせないように。同じミスを何度も繰り返さないように」

6) RM 会議報告

○PBP 終了後に開催された RM 会議の参加報告 今回、二つの会議があった。

○アンバサダー会議

親善大使が集まるものだと思っていたが、本当の大使だった。全員正装していたが、私はレーパンで(笑)出席した。出走前だったので、川野さんのもとに届いた案内メールは市役所からのもので、結局、BRM とは無関係だった。今後、AJ としては出席する意味はあまりない。ACP のファブレルさんも欠席していた。

○RM 総会

3つの議題があった。

1:会長及び副会長、並びに財務担当役員の選出

イギリスのキース・ベントンさんが会長、ドイツのライナー・パファーズさんが副会長、ファブレルさんが財務として選出された。ファブレルさんは ACP の海外担当を兼務する。PBP 開催の 6ヶ月前から役員を選出してもいいのではないか、という意見があった。

2:会計報告

報告書類は全員に配布されなかったので写真に撮った。内容は簡単で、『余剰金は日本円換算で 490 万円ほどある』という旨のみ。会計や支出などの報告はなし。収入については、ACP の方でできない 1200km 以上のブルベの参加費および認定料しかないはずだが、これだけ集まっている。参加費から納める金額が大きいという印象。これは翌年に持ち越され、4 年前からすると倍近くに増えているが、それに対する質問は一切なかった。

3:賞の新設の是非

イタリアから、RM で新しい賞を作ろうという話が出た。ISR(インターナショナル・スーパー・ランドナー)という称号がある。これはイギリスの管轄で、4 大陸で走った人に与えられる称号である。現在、世界で約 70 人いる。あまり認知されていないので、もっと認知されるよう、PBP・LEL・Miglia の 3 つを走れば与えられるようにしてはどうか、という提案。しかし、わざわざ何のために ISR の対象を 3 大ブルベにするのか、それは良くないという判断が下されて 2/3 が反対し、否決された。これら 3 つの議題で 2 時間ほどで終了した。ルール改定などはなし。

・その他

キースさんに直接質問したりなど、雑談の中で伝えられた話。SR600 のインフォメーションの中で冒頭に『出走者は自由さを持って走る』旨の記述があるが、日本のブルベは外国人が走りにくいという話が出た。Web サイトが日本語だけなので、日本人しか走れないのか?という疑問に繋がるようだ。これから役割を分担していく中で、誰でも参加できるようグローバル化して行かなければならないのではないかと、個人的には思っている。

ロシアの出席者からは、来年の 1200km の諸内容を説明された。それから、来年 Miglia が開催されるが、ミラノ万博があるため、特例で今年 20 名の参加者枠で Miglia が開催される。そのお誘いがあった。参加費

は無料だそうだ。これはその場にいる人たちしか知らされておらず、その場では 18 名の登録があった。2011 年の PBP では、91 時間までは容認されていた。しかし、今回はぴったり 90 時間以内での認定だったため、10 分など超えた人は認定されてない。走行中に『91 時間までは大丈夫だ』という噂が流れ、それを信じて遅れた人が認定されてなかった。規定はあくまで 90 時間なので、今後、注意してほしい。

・PBP の結果 エントリー数 6051 人、出走数 5867 人、認定 4512 人、認定外完走 138 人、DNF1217 人

7) 「ランドネきたかん走行会」開催報告(服部)

○経緯

去年の 9 月か 10 月に、宇都宮市役所の方から相談を受けた。『宇都宮市を自転車のまちとしてアピールしたい』『宇都宮・前橋・高崎・水戸の 4 市が、北関東を盛り上げるための機関を設置した。その最初のイベントとしてブルベを開催してみたい』そこで最初に、時期的にも ACP の認定は受けられないので BRM としての開催はできないことを説明したが、非公式でも開催したいと言われた。そこから前任の小花代表との協議で、あくまで主催は宇都宮市を中心とした 4 市の協議会、そこに AJ 宇都宮が協力する形で走行会として開催する、ということで合意して、今年の開催にこぎつけた。

非公式でも AJ 宇都宮が関わること、またブルベという名がつくことから、そこでトラブルがあってはならないので、安全管理を確実にを行うことを最優先で準備した。コースも AJ 宇都宮、正確には私が主体となってデザインしている。初心者が多く走ることを考慮して、平地主体でできるだけ無人区間を避けたコースにした。

○概要

同一コースを東回り・西回りと逆回りするようにして、それぞれ 150 人ずつ応募した。出走者数は東回り 127 名、西回り 117 名。完走者はそれぞれ 91 名・88 名。完走率は約 7 割。その間のトラブルを心配していたので、各コース 2 名ずつスタッフを実走させ、また最後尾からサポートカーを両方向に走らせた。大きなトラブルは 1 件、参加者 1 名が落車して肩を骨折した。サポートカーで駆けつけ、ご家族に連絡し、重大な事態には発展しなかった。最終的には、他に大きなトラブルはなかったと報告を受けた。開催は新聞で大きく取り上げられ、地方テレビ局の番組でも取り扱われた。また、雑誌などでも取り上げられた。前橋のプロレーシングチームにも全面的協力をいただいた。開催セレモニーには 4 市の市長がサイクルジャージ姿で登場するなど、市をあげて協力していただいた。地方のテレビ番組では、その模様が実況放送されたので、多くの方に認知していただけたと思う。また、事前に AJ 宇都宮からも、安全とマナーをしっかりと守って一般の方々の模範となるよう走って下さいと、具体的な点までパンフレットを用意して説明した。その結果、皆マナー良く走り、そういう意味ではマナーアップに貢献できたのではないかな。

○問題点

最も大きなところでは、行政主体で開催しているため、どうしても地域振興に目が向いてしまい、エイドステーションが PC 以外に多数設けられてしまったこと。東回りで 1 ヶ所、西回りで 2 ヶ所もあり、クレームがたった。実地で確認したが、エイドと呼ぶにはカロリーが少なすぎて、それを期待して行った人はハンガーノックになりかねない状況だった。もう 1 つ、行政の方から支出するということで、参加費を無料にいただいたが、それが逆に、無料なので軽い気持ちで参加した人もいたのではないかなという印象があった。

○今後に向けて

地域の方々の要望を極力取り入れるコースデザインをギリギリまで調整していったが、そのままでは ACP の

公認は受けられない旨の話はした。それでも市役所側からは、来年は公式な行事として開催したいという要望があった。そうすると、AJ 宇都宮が主催しなければならず、その上、私たちが規則に則って開催する以上、そこに行政が余計な口出しをすると認定を受けられなくなる可能性があることを説明し、全て理解していただいた。来年のコース申請を 4/29 に、400km として 2 コース、同じコースをお互い逆回りとした。市役所にスタート前及びゴール後のお手伝いをいただくのは非常にありがたい。また、事前に告知や宣伝をしていただくのも問題ないだろう。ただし、走行中のサポートは禁止という規則があるので、PC 以外の場所でエイドを開設するのは難しい。その他の点でも、通常のブルベとして開催することで了解をいただいているので、我々の責任のもとに開催させていただきたいと思っている。日本の自転車というとレース一辺倒だったところに、こうしたツーリングやブルベ、ロングライドという新しいジャンルが認知され、そこに我々が AJ として関わられるのは非常に良いチャンスなので、ぜひ協力してほしい。

岩本「シークレットポイントをエイドのようにするのは構わないだろう」

柳沢「主催者が出す分には、好ましいかどうかは別として、問題無いだろう」

岩本「きたかんランドネの話が持ち上がった時、行政とのタイアップの良し悪しや利益について議論があったが、私は良いことだと思う。自転車と言えばブルベ、サイクリングと言えばブルベ、という風に、世間の誰もがブルベを知っていて、コンビニでブルベカードを出せばすんなりサインしてくれる、くらいになってほしい。そのためには、小さな組織の中だけではなく、行政などを巻き込んで行かなければならない。そうなれば、事故が起きた時でも保険の手続きがスムーズだ。また、世間の目は厳しくなるが、例えば 1200km を開催する際に、宿の提供などの話もしやすくなる。あくまで ACP のルールにならい、責任を持つのは各クラブ。それを守れば良い」

8) 認定記録 DB 開発の件

柳沢「認定記録 DB という、記録が閲覧可能な DB というイメージがあるが、誰かが認定番号の入った記録を DB に入力しなければならない。そういう作業は、担当者が行うより主催者が皆で行う方が手取り早い。それなら入力時に、現在川野さんが目視で行っているような形式チェックをシステム上でできれば、川野さんの手間が省けるだろう。そのデータを自動的に分析することによって、例えば、伊藤さんや会長が年末に各クラブと精算するにあたり、精算書の記載が正しいかどうか、手作業で各リザルトと突き合わせるのも自動化できるのではないかな。認定記録を閲覧できるだけにとどまらず、AJ の認定及び精算に関する事務作業を極力省力化するシステムを作りたい。それについて、開発担当者と 1 年間の不定期ミーティングを重ね、技術的及び予算的に可能との目処が立ったので、認定記録 DB ではなく AJ の事務基幹システムとして開発したい」

○機能

- ・参加者は、ローマ字氏名または AJ 会員番号で認定番号を検索できる。検索すると、それまで走った BRM の認定番号の一覧を見られる。
- ・それぞれ 1BRM について一覧で参照できるようなファイルを検索できる。日付、開催クラブ及び距離で検索すると、自分が参加した BRM で他にどれだけの人が走っていたかなどが見られる。要は今の AJ サイトに掲載しているリザルトと同じものを見ることができる。

・AJ 会員番号で自分の認定記録を検索した場合、そのまま SR メダルや R5000 の申請書類を作れる。PBP のエントリーの仕組みと同じ感覚で、Web 上で自分の会員番号を入力して検索、それぞれの距離で申請に使用する認定番号を選んでダウンロードのボタンを押すと、走った日付、主催クラブ及び認定番号の入った Excel ファイルがダウンロードできる。後はそこに自分の個人情報を入力して申請受付の担当者に送信すれば、申請終わり。技術的に可能とのこと。

・主催者は、認定記録データを登録する。BRM について主催者が独自にデータ分析を行いたい場合に、DB 内のデータを CSV 形式で一括ダウンロードできる。

・ACP 担当者は、認定番号登録時に、ACP に申請するファイルを DB からダウンロードして ACP のサイトにアップする。そして返ってきた認定番号を元の DB にアップすれば、DB の方で認定番号をすぐに関連できるようにする。

・DB の中に、エントリー・DNS・DNF・認定・メダル購入それぞれの数の情報が入っているので、それを元に、精算担当者が精算書と照合できる。現在はファイルを 1 つずつ開いて数えなければならないが、それを自動化する。

・AJ の管理者が、もし過去のデータにミスなどがあった場合に、直接データにアクセスして修正できる。主催者が行うのは DB が稼働した後のデータ登録だけなので、それ以前のデータについては、管理者が登録しなければならない。

○DB で取り扱うデータの種類と管理

・ACP 認定 BRM、フレッシュ、SR600 及び日本国内で行う RM 認定 1200km+ の認定番号は、基本的に全部入れる。ただし、フレッシュ、SR600 及び日本国内で行う RM 認定 1200km+ に関しては、リザルトの提出方法は今と同じ手作業での入力になると思う。なぜなら、件数が少ないので手作業でも無理がないことと、逆にそれに合わせた自動処理を開発する手間の方が大きいから。

・データの範囲だが、AJ としてどこまでデータを持っているか遡って調べてもらった。2008 年以降のデータについてはほぼ網羅する形で DB に登録できるだろう。ただし 2008 年初めの静岡 200km の頃は、リザルトの形式が今と違うので、その頃のデータは載せられない可能性がある。その後も一部、データの欠落があって、それに関しては各主催者の協力をいただく。信濃に関しては稲垣さんに頼むしかない。R10000 は過去 6 年分の認定記録で申請するわけだから、2008 年からのデータがあれば問題ない。本当は 2007 年以前のデータも載せたいが、残っていない。

・個人情報については、基本的に持たない方向で考えている。取り扱いに注意すべきデータを持てば持つほど、高いセキュリティをかけなければならなくて、お金も手間もかかる。それなら極限まで持たない方が良くはないか。例えば認定番号が個人情報だとして、それは悪用しようがない。あとはせいぜいローマ字氏名と性別くらいか。

○システムの開発と運用

・開発は外注で、原田さんのところで仕事として依頼する。その方がボランティアが片手間で作るよりも、良いものが早くできると思う。運用サーバは AJ サイトを運用しているさくらのレンタルサーバ上で、アップグレードプランを使えば運用できるだろう。レンタル費用は若干増える。運用開始後の管理は、専門知識を持った方々がやってくれれば良いのではないかな。

・DB が運用開始したらリザルト作成業務がどれだけ楽になるのか、説明する。検討中につき最終案ではないが、方向性としては次の通り。今は AJ のファイルと ACP のファイル、それぞれを作って別の場所にアップ

している。それは面倒臭いので一本化する。一つのファイルをDBにアップするだけ。項目も現在より減らして、7項目。フォント指定はなし。書式指定も最低限を守りさえすれば良い。ただし、最低限さえ守れなければシステムが弾く。

・現在、川野さんがボランティアで目視チェックしているのを、提出時にシステムが自動チェックするようにする。修正が必要になった場合は、現在は修正したファイルを再アップしているが、運用後は管理者に依頼して修正してもらおう形になる。

柳沢「今使っている書式から大きく変えない方が使い易いだろう。クラブ名・クラブコード・開催の日付・距離、これらは各自で入力する。システム的には、クラブ名とクラブコードが一致しているかどうか、それから距離と日付で開催のマスターを持つので、それと一致しているかどうか、チェックをかける。Excelのa列にAJの会員番号があれば入力する。今は4桁ハイフン2桁という数字で決まっている、あるいは空欄。それ以外は弾く。ホモロゲーションの欄は、主催者が入力するわけではないので空欄。何か入力されていた場合は強制的に削除。c・d列の名前のところは、英字以外は不可にしておけば良いだろう。ほとんどの人は苗字と名前を持っていると思うので、両方埋める。空欄不可。よくミスがある e・f 列の所属クラブ欄は空欄が良い。なぜなら、クラブ一覧のマスターを持っているので、g 列のクラブコードを正として、システム的にクラブ名を入力するから。海外クラブについては、マスターをAJが全て持つのは非現実的なので、クラブコードが入っていれば、クラブ名は手入力してもらうしかない」

川野「都度、マスターに足していけばいいのではないか」

柳沢「要は、きちんとしたマスターがなければシステム的なチェックはできない」

川野「管理者がその都度編集できるようにしておけば良いのではないか」

柳沢「それら細かい点はいずれ検討する。クラブコードを正としてクラブ名を空欄でシステムで入力しようとしている理由はの1つは、クラブ名のミスが非常に多いから。もう1つは、恐らく同様の理由だと思うが、ACPのサーバの処理もそうなっている。クラブコードとクラブ名が不一致だった場合、クラブコードを正としてクラブ名を書き換えている。クラブコード欄は6桁の数字を入れる。空欄不可。ここも基本的にはACPが発行しているクラブコードは6桁だが、なぜかACPのサーバでは7桁まで登録できる。ディスタンスの欄は、『[h]:mm』または『DNF』または『DNS』、かつ空欄不可。『[h]:mm』というのは、そういうExcelの書式設定で出しても良いという方向で考えているということ。例えば400kmや600kmで24時間を超えた時に、27時間〇〇分などという場合にExcelの方が勝手に24時間分を引いて3時間〇〇分と書き換えてしまうことがあって、時折、それを回避するためにコロンをセミコロンに変えてくるなどクリエイティブな方法で回避する人がいるらしい。ここは厳しく指定したいと思う」

大谷「皆さんに共通認識してもらうために、書式設定を明示的に出した方が良い」

柳沢「i列は、メダルがあった場合はスモールエックス(x)指定だが、大文字のエックス(X)で出した場合、ACPのサーバでも変えてくれるらしい。AJもそれに倣って、大文字か小文字のエックスなら受け付ける。数式の『掛ける』やバツテンは不可」

岩本「カッコ()を付けている人がいる。そのままコピーで」

柳沢「それも不可。性別の欄は、女性の場合「F」を入力するが、これも大文字でも小文字でも構わない。名前のフォントの大きさ違い・全て小文字または大文字・苗字が小文字で名前が大文字、どれもOK。フォントの種類違いもOK。入力内容自体のミスさえなければ良い」

大谷「完走時間は自動的に1月からACPの方に入らないのか」

川野「ACPのは無視される」

今野「そのチェックは入れてもらえないのか。本来は、上限時間と下限時間があると思うが、DNFになっているはずなのに認定申請したものをチェックしてくれるような機能は入れるのか」

柳沢「入れる」

川野「名前にミドルネームがあつたり空白があつたりするケースは0ではないと思うが。例えばそういう人が海外から来る場合もあるのでは」

柳沢「空欄ではなくて、また文字列の先頭や最後に半角スペースがなければ、間にスペースがあっても良い仕様にしておけば良いのではないか」

川野「スペースではなくて、空欄がダメということか」

柳沢「その通り」

井出「名前の途中にアポストロフィやハイフンが入る人もいる。それも良いのか」

柳沢「どういうことか」

井出「例えば健一なら ken'ichi のように、ken と ichi を分けるために入れる人がいる」

川野「英語ならアポストロフィが入る名前もある」

柳沢「良いと思う。今は方向性の報告なので、そう言った細かい仕様のリクエストは随時受け付ける」

○開発スケジュール

このタイミングで出来ていれば良かったが、今年はPBPの開催など諸事情があつて叶わなかった。来年内に、過去のリザルトが検索できる、参加者側が使う機能を先行リリースして、並行して主催者がデータを登録していくというのを、幾つかのクラブに協力してもらつて順次テストしていく。2017年からBRMのリザルトの提出方法を新しい方式に全面移行したい。

○DB公開に伴う『BRM/AJ』規定の改定

これらの仕組みを作るにあつて、BRMの規定を変えたい。例えばユーザーアカウントを作つてIDとパスワードでアクセスするという機能は設けない。管理が大変なことが理由。そのために、認定番号というのは、例えば名前や会員番号を適当に入れたら他人の認定番号が見られるという仕組みになる。それでいいと思つている。ほとんど悪用しようがないからだ。わざわざ他人の認定番号を利用してSRメダルが欲しい人がいるとは思えない。ただ、今のBRM規定では、17条:結果の公表『個人名・総走行時間を公表されることに、走行者は同意しなければならない』となっている。ここに認定番号というのを入れておけば、後からクレームがつくことは無くなるので、17条改訂後『個人名・総走行時間・認定番号を公表されることに、走行者は同意しなければならない』に改めたい。

→全員意義なしで承認。

柳沢「いろいろ検討している中で皆の意見を聞きたいことが3点ある。1)完走タイムを公開するかどうか。SR600については、今はACPからの通達で公開は禁止されている。理由はレースではないから。タイムトライアル合戦になるのは嫌。BRMについては完走時間は公開している。システムを作る側から言うと、公開する情報が少ない方が作りやすい。SR600について公開禁止なら、BRMも公開しなくて良いのではないか。認定番号が分かれば良いわけだし、中には過去のリザルトを調べて、ツイッターなどで最速タイムの話をす

る人もいる。それはあまり好ましくないので、非公開にしたい」

鈴木「それには賛成だが、岩本さんが過去に『リザルトを各主催者のサイトに出すように』と言っていた。なので、データベースが出来ようが出来まいが、各サイトでリザルトは出すべしという方針は残るとのことか」

岩本「なぜ私がそう言うかという、参加者本人の確認手段がないから。タイムも、終わった後で AJ のサイトに上がっているが、その時は ACP から認定番号をもらっている、後から名前や完走・未完走のミスなどが出てきたらまた ACP とやり取りしなければならない。AJ 福岡では、終わったらなるべく早く全員のリザルトをアップして 3 日以内の確認を呼びかける。それ以降は受け付けないと謳っていれば、皆確認してミスを伝えてくる。それを確認する手段がないと、皆黙ってどうしようもない。参加していても、参加していないことになっているかも知れない。それは参加者にとって良くない。その時に反対意見はいろいろあったが、リザルトをアップするのが本当だと思う。早く本人に確認してもらって、ACP に連絡する前に修正を入れる。なるべく先々まで行かないように。そうすればスムーズだ。そこで時間を削ろうが性別を省こうが構わない。できるだけこちらや ACP に迷惑をかけないようにしてくれ、ということ」

柳沢「2)性別の欄。BRM は非公開。ただし SR600 については公開されている。特に意見がなければ、非公開でいいのではないかと思います」

川野「ない方が開発が楽なら、楽に開発して早く公開するのはどうか」

柳沢「これがないからと言って、早くできるわけではない」

川野「ミスは少ないと思う」

柳沢「3)メダルの有無。あの時メダルを買っただろうか、ブルベカードが返送されてないから分からない、などというケースでは見られた方が良かったらと思う。しかし、メダルを一括で各クラブに配って現物引換にすれば確認の必要はなくなるので、非公開で良いのではないか」

これら 3 点については異議なし。

柳沢「この方向性で議論を進め、その後更に詳細な仕様を決めて、それに対して正式な見積を取ることで皆の承認を取った上で、正式に契約して開発する」

岩本「概算の金額は分からないのか」

柳沢「まず、開発が約 280 万円。運用にかかる費用は、さくらのレンタルサーバのアップグレード代だけで考えている」

原田「プレミアムで年間 15,000 円、現在はもっと安い」

岩本「現在は 5,000 円強」

柳沢「あとは浅野がサポートしてくれれば(笑)。そのくらいの開発コストないしはランニングコストで収まる。まだ今年の決算は最終的に出ていないが、およそ 300 万円の開発費を一括で支払っても、AJ の会計が急に困ることはない」

稲垣「会計のことを聞かれた時に、来年度、参加費はやはりこうしないとうまくいかないね、ということになったら、皆の承認の中で考えればいいと思う。まず AJ が行うべきことを優先する」

柳沢「今は詰めている段階なので、他にリクエストや意見があれば検討する」

井出「ユーザーインターフェイスがどうなるかは、どこかの段階で見せてもらえるのか」

柳沢「見せる」

大谷「認定データを各クラブで作ったものを入力するとここから出力される、という理解でいいのか。DB として認定が出たものを見せるという話と、そこから皆がミスしないようにという話が出ていたが」

柳沢「外から見て認定が確認できるためには、最終的には ACP 担当者が認定番号入りの Excel ファイルを

サーバにアップしなければならない。その前提として、認定番号の入ってないファイルを、ACP 担当者はどこから手に入れなければならない。そうすると、それを皆が『ACP 担当者さん、これで認定取ってね』とファイルをアップする先と、ACP 担当者が認定番号入りの Excel ファイルをアップする先が、同じサーバにある。そして、皆がアップする時に、現在は川野さんが主催者サイトからデータをダウンロードして、ACP に送る前に目視でチェックしているところを、皆がサーバにアップする段階でシステムが自動的にチェックをかける」

田中「主催者はそこにアップするだけで良いということか」

柳沢「その通り。後は ACP 担当者がダウンロードして ACP のサーバにアップすると、ACP のサーバから認定番号の入ったファイルをダウンロードできるから、それを元のサーバにアップする。そうするとその段階で外から検索した時に、自分の名前や会員番号で認定番号がパッと出る仕組みだ」

大谷「アップロードは指定された Excel ファイルをパッと送るだけになるのか」

柳沢「主催者サイトと同じ感覚でアップするか、もう一つ考えているのは、カレンダーがあって、〇月〇日の日付をクリックすると、そこにアップできるという形」

大谷「ファイルとして作ったものをアップするのか、入力しなければならないということはないのか」

柳沢「ない。もしアップロードした時に書式上の不備があれば、エラー画面が出て登録できない。エラーの内容はコピペなどで控えておくようにするのかなど、その辺はどうするか考え中」

井出「コースコードが同じで時間が異なる場合はどうなるのか」

大谷「ランドネきたかんのように、1 クラブが同日に逆回りで 400km を 2 本開催するなどの場合、どうやって識別するのか。識別できない形で ACP が処理するのか、よく分からない」

川野「ACP のサイトでは識別できてない。2 件申請すると、認定システムでカレンダーがあって、全く同じ名前前で 2 件入っている。それに例えば、1 人漏れてたから追加してくれ、という時に ACP の管理者が何をするかという、全く同じ名前でもう 1 度新規にエントリーを作って、そこに認定を 1 人追加する。ACP の考え方としては、〇月〇日にどこのクラブが開催、〇〇km、完走者〇〇人、番号はこれ。それ以上は管理していない」

稲垣「リザルトを入力すれば自動的に DB に入ってしまうということか」

柳沢「その通り」

稲垣「例えば多少のミスがあったとしても、そこで修正されてしまうということになるのか」

柳沢「要は、書式について細かく言わなければいけないのがどこのタイミングかという、ACP 担当者が ACP のサーバーにデータをアップする時だ。極端な話、AJ が DB を作ってそこにアップする時は何でもいい」

稲垣「だが、それが出来てから ACP に送るのでは遅いわけだから、ちゃんとしたものを作っておかなければいけないのか」

柳沢「いや、その緩いものを担当者が出す時にきちんとしたものにするのは、サーバの方でシステム的に処理しますよ、システム的にできる範囲はヘルプしますよ、ということ」

田中「それならいっそのこと最初から、csv ファイルで提出すればいいのではないか」

柳沢「そういう意見も出た」

川野「主催者が目視で確認できないものをアップするというのは、非常に危険が伴うので、見える形で目検が終わった状態でアップする方が、ミスは出ないと思う」

柳沢「Excel ファイルを扱うにも、Excel を使用するわけだから」

大谷「そういうことが出来る人じゃないと意味がない」

柳沢「Excelが勝手に気を利かせて余計なことをしてくれるケースがあつて、結局CSVだろうが安泰じゃない。だったらそのままExcelデータでも変わらないのではないか、という話をした」

今野「さっきのリザルト処理プログラムの件とつながるが、そもそもこの入力画面を作るという話は今までなかったのか。SEからCSVをダウンロードしてリザルトを入力していき、Excelファイルを作ってアップする、という流れだと思うが、最初からこのDBのシステムにSEのCSVをダウンロードしてきて、Webベースで各結果を入力してデータを登録する、という形にはならなかったのか」

岩本「全員がSEを使ってはいない」

柳沢「どのクラブも同じ条件で利用できるものとして、Excelファイルをアップ、としている。むしろ私は主催者やスタッフのツイッターの発言などを見ていると、皆だんだんSEを使わない方向に行くのではないか、別にSEを前提としたシステムにする必要はないと思っている」

川野「個人的には賛成。国外から日本で走りたいという時に、SEが高いハードルとなっている」

稲垣「日本語が分からないから」

川野「海外のライダーからすると、支払いなど、どうして良いのか分からない。それで『日本の代表は誰なのか、連絡先を教えてください』とメールが来る。それを、SEを使っている主催者に『この人を走らせてあげてくれないか』とメールをやり取りしていたりする。直接、個々のクラブの代表に連絡が行くこともあるが、そうでないケースもあって、今後そう言ったケースが継続的にあるのは良くない。『日本はちょっとクローズですね』とフランス側に言われてしまうと、謝るしかない。SEありきというのはしない方が良い」

田中「それならいっそ、SEに相当する部分を作って、主催者はあらかじめスケジュールをそこに載せ、リザルトをWebの画面で入れてファイル完成という形にしてしまえば良いのではないか」

柳沢「決済はどうするのか」

田中「そこは課題となる」

柳沢「それから、各クラブのエントリーにAJが関与するという考え方は持たない。元々、SEの取りまとめも、昔はAJが一括でやっていた。しかし、クラブが自分たちのところで申し込む方法が多様化してもいいんじゃないか、別にAJが関与することではない、という考えで、現在のような方法になってきているわけで、AJが一括で請けるのは今までの流れに全く反する」

鈴木「さっきの個人情報の話と絡むが、現在AJに提出するものは日本語名と生年月日が入る。あれは個人の識別のために必要だと以前説明があつたと思うが、提案にあつたリザルトの形式だと、英語名だけになる。同姓同名の問題をどう処理するのか」

柳沢「なぜ生年月日と漢字氏名を入力するようになったのか。2011年のPBPは各国参加人数を割り振ると決まった時、日本ではPBP参加希望者がACPの割り振った日本の定員を超えた場合、2010年の走行記録で優先順位を割り振ろうと2009年に決めた。その時、2010年の走行履歴は、AJの会員なら会員番号で紐付けできたが、2010年と2011年の記録をきちんと名寄せする方法がなかった。そのために、生年月日を入力させた。日本の参加規模から考えれば、同姓同名な上に生年月日まで一緒というのは、まずありえないからだ。現在はそこまで厳密な名寄せは求められていないと思っている。当時は、何km走ったかという記録が重要だと思われていたから、結果はそうではなかったが、3200km走っていなければPBPに出られないと思われていた。そこで、2010年と2011年の記録をきちんと名合わせできるようにしようと言ったのが始まりなので、当時は必要だったかも知れないが、今はそこまでの情報は必要ないのではないか、ということだ」

大谷「うちは生年月日を合わせるのに、毎回相当に時間がかかる。参加者に問い合わせ、AJのマスター

と合わないものは引っかかるようにして処理する」

柳沢「それは Mac 版の Excel と Windows 版 Excel との違い、ということではなくて？」

大谷「そうではなくて、エントリーの時に入れてくるデータが違う。『どっちの方が合ってる?すみません、AJ の会員名簿の方が間違えてました』ということもある。そうしたら、AJ の会員名簿の方を修正するよう要望をこちらから出す、ということを行っている。DB ができて生年月日が不要となるなら、はっきり言って今すぐやめたい。間違ったデータをアップしてしまうと、間違った DB に入ってしまうのは後で厄介だと思うので、うちのスタッフ 2~3 人に確認させている」

柳沢「来年のリザルトはどうするかここでは決められないが、稲垣さんたちに託す」

今野「生年月日を持たないとするならば、例えば今年は会員ではなかったが来年会員になったという人は、過去のデータとは紐付かなくなるのか」

柳沢「例えば、会員番号検索をした時に、会員でなかった時の記録が紐付かないのは仕方ない。昔は会員の申し込みは期間限定だったが、今はほぼ通年オープンしているにも関わらず、1,000 円を払わず会員にならなかった、それは仕方ないことだろう」

岩本「基本的に AJ 会員のための DB 作成だから、会員にならない人が名寄せできないのは仕方ない。会員になってしまえば番号で紐付けできるんだから。1,000 円払って会員になった人たちのための DB 作りなので、それを気にする必要はない。本当に正確な情報が知りたいなら、会員になればいい。ということで、お金がかかるのを承認いただけるかどうかが一番の問題だが、何もしないままではいけないので先に進めたい」

稲垣「それを承認していただくと同時に、もう 1 つ。主催者はボランティアで集まっていると思うが、これから AJ の仕事として行ってもらうわけで、諸経費は結構かかるものなのか」

岩本「ある程度はかかるだろう」

柳沢「交通費などは記録しているので、それは請求する」

稲垣「請求するということも同時に承認していただきたい」

全員異議なしで承認された。

AJ 岡山の澤田さんより、四国の宮崎さんが紹介された。来年は AJ 岡山主催で四国コース 2 本を担当し、その後四国代表になる予定。

岩本「RM 認定の 1200km+ではできるだけ宿泊施設を用意し、外国人を受け入れるということで、どうしても実施したいというクラブを抑えて北海道に実施してもらった。実施したいと言えなかったクラブもあると思うが、来年はオダックス埼玉が 2400km を行う。北から南まで、宿泊施設は押さえていない。PBP の旅行会社グッドウィルと話をしてくれたのは前会長の白木さん。全て白木さんに任せた。現地連絡担当の支払いの件で白木さんに確認した時、白木さんに『来年 2400 やるからね』と言われ、私は何も言えなかった。すみません」

稲垣「今、北海道と岡山が計画しているのは、RM 認定の 1200km。1200 から 2000km では、外国ではほとんどの国でオーバーナイトコントロールを設置して、外国人の受け入れもある。それを越えている部分に関しては、同じ RM の分類でも 2000km 以上、つまり 2009 年のバンクーバーアイランド、去年もあったスカンジ

ナビアの 2100km、それからロシアの 4500km など幾つかある。そういったものには、オーバーナイトコントロールはない。それで、2000km までに関しては、例えば 2017 年の LEL はオーバーナイトコントロールが必要となる。来年の Miglia1600km、これもある。2000km まではオーバーナイトコントロール、これは暗黙の了解となっている。これがグローバルスタンダードという考え方でいきたいと思う。しかしオダックス埼玉が実施するのは、2000km を超えている。コースを作ったスタッフはその辺りを確認していると思うが、そういう形の検証が皆に伝わっていなかったのが疑いを持たれる。韓国の 1200km はオーバーナイトコントロールがないために批判がある。しかし、2000km を超えているものについては批判は 1 つもない。今後、1200km をやるクラブは、頭に入れておいてほしい」

最後、岩本さんに任期満了を記念して花束が贈られた。

以上、17:00 閉会